

人権まちづくり新聞

第7号
編集発行
枚方人権
まちづくり協会

すべての市民の人権が尊重される街へ

枚方人権まちづくり協会が総会



野谷協会理事長

五月二七日、メセナひらかた会館で、枚方人権まちづくり協会の総会が開かれ、今年度の活動方針など6議案が承認されました。

総会では、野谷理事長が「二十一世紀が人権の世紀であることを見据え、枚方市と連携し、すべての市民の人権が尊重されるまちづくりを」と挨拶。続いて来賓の伏見枚方市長、大塚市議会議長、奈良教育長が挨拶されました。

次に議案が審議され、昨年度の事業報告や決算と監査報告、理事・監事の選任の案件が承認されました。直ちに持たれた理事会の後、今年度の事業計画と活動予算が総会に提案され承認されました。なお理事会では、当協会の発足以来、会の発展に尽力された前理事長の前原哲雄さんの顧問就任が承認されました。さらに総会後の理事会で、今後の協会の運営を円滑に進めて行くため、中期的視点に立って、より効果的な運営をめざす「調査研究部会」の設置を決定しました。

また、総会後の会員研修で、市内の中学校を卒業し、現在は府立高校に通う新居優太郎さんも出演している、人工呼吸器で生活する人々の日常を描いた映画「風は生きよという」を上映しました。協会は、今後もすべての市民の人権が尊重される街、枚方をめざして活動をすめます。



「イクメン」がなくなる日

いつとき「イクメン」という言葉がはやりました。男性で積極的に育児に取り組む人のことです。もちろん、本来、育児は母

「イクメン」がなくなる日
親だけに課せられたものではないです。父親も共に責任を負うべきものです。しかし、「育児は女性がするもの」という固定的性別役割分担論や男性労働者の長時間労働などが相まって、これまでは、男性が積極的に育児に関わるのが難しい現実がありました。ここへ来て、ようやく積極的に育児に関わる男性が始め、「イクメン」という言葉

が生まれ、昨今では駅などの男子トイレにも「おむつ交換台」などが設置されるようになりました。（写真は樟葉駅男子トイレ）
しかし「イクメン」などという言葉があること自体の証です。「イクジョ」という言葉はありません。今後さらに男性が積極的に育児に関わるのが当たり前になり、「イクメン」という言葉がなくなる日が来るのが望まれます。

こんなことやってます
枚方人権まちづくり協会

<p>〈人権まちづくり協会〉 TEL 072-844-8788（「福祉なんでも相談」を除く） [人権なんでも相談] 月～金/9時～17時半 [地域就労支援相談] 月～水/金 9時～17時半 （要予約） [進路選択支援相談] 火曜日（要予約） 13時～17時/18時～20時 [福祉なんでも相談] 月～金/9時～17時半 専用TEL 072-844-8866</p>	<p>〈男女共生フロアウィル〉 以下、利用は女性のみ [電話相談] 月10時-12時/13時-17時 木13時-16時/17時-21時 専用TEL 072-843-7860 [生き方相談(要予約)] 水 13時-21時 金 10時-17時 TEL 072-843-5636 [法律相談(要予約)] 第2金/第3木/第4土 13時-16時 第1金 17時-20時 TEL 072-843-5636</p>
--	---

枚方市岡東町12-1-502 サンプラザ1号館5階

「スポーツから考える男女共同参画」

ソウル・オリンピック
女子柔道銅メダリスト

山口 香さんが講演



六月一八日、メセナひらかた会館で、枚方市主催の男女共同参画週間事業として、ソウルオリンピックの女子柔道銅メダリスト、筑波大学体育系准教授の山口香さんの講演がありました。

「スポーツから考える男女共同参画」と題した山口さんの話は、柔道の先覚者で講道館を開かれた嘉納治

五郎さんの話から始まり、まだ女子では試合の許されなかつた時代に女子柔道の先鞭をつけられた二人の先輩の話、そして「女だてらに」と言われていた時代に柔道をはじめた自らの体

験へ。さらに、今やオリンピック選手団やメダル獲得者の半分を占める日本の女子選手の活躍を話され、二〇二〇年の東京オリンピックへの期待を語られました。また質疑応答では、「スポーツ報道には、『の男』と『オトコ』を強調するものがあるが」との質問に、「社会が変わればマスコミも変わる」と、社会が変わる大切さを指摘されました。

映画「風は生きよという」を見て

5月27日、人権まちづくり協会の総会後に「風は生きよという」が上映された。そこに出てくる海老原さんは「脊髄生筋萎縮症」を発症し、人工呼吸器を一時も離せない毎日を生きている。が、彼女は明るく前向きだ。たくさんのできないことの中で障がい者ができることは、社会に出て人に意識づけることだと言う。「かわいそうにね」って言われるけど、みんなが助けてくれたら、支えられたら、困るとは思わない。一緒に地域の中で生きていける。と明るく語っていた。障がいは自分が克服することではなく、人に助けを求めて、環境を整えていくことだと言う。できないことは、周りができるように補えばいい。こんな当たり前のことを、改めて確信した映画だった。（協会会員Hさん）

紹介します

市民活動部会

かつて、アメリカのキング牧師は、人間社会で一番の敵は、「無関心」だと言いました。そして今、混沌とした中で、更に人間不信社会になりつつあります。

そのような中で、私たち枚方人権まちづくり協会は、創設10周年を超え、この無関心、人間不信から少しでも脱却、前進しようと会員一同が「人権尊重都市宣言」の下、人権尊重まちづくりをめざした啓発活動を行っております。

当協会では、啓発事業として、二つの取り組みパターンがあり、市からの委託を受けたものと、会員自らが企画、提案した自主事業があります。この自主事業にたずさわるために作られたのが、市民活動部会で、現在8人の部会員で構成され、ほぼ月1回の定例会議を持ち、さまざまな啓発事業を企画・提案してきました。

例えば昨年度（2015年度）は、10周年記念事業として「市原悦子朗読会」を開催しました。その他にも、「夏休み親子映画会」や「福井県の若州一滴文庫への現地会員研修」、「劇団言葉座による『おせいさんの昭和』上演」を実施しました。

今後も充実した啓発事業を企画・提案していきます。また会員の皆様からのご意見・ご提案を期待しています。

市民活動部会長 田中昭導

会員随時募集

枚方市を市民一人ひとりの人権が大切にされる街へ。あなたも会員に。

NPO法人枚方人権まちづくり協会
(TEL : 072-844-8788)